

日本のお手玉の会の20周年を40社を超える新聞社と放送局が紹介 共同通信社が全国のマスコミ各社に配信

日本のお手玉の会が20周年を迎えることについて、共同通信社の取材を受けました。それが、「お手玉遊び、全国へ広がる 高齢者と孫世代仲良く」のタイトルで、共同通信社から全国のマスコミ各社に配信されました。その記事を、平成25年4月6日に、新聞社や放送局の紙面やホームページで一斉に報道しました。

その報道範囲は北海道から沖縄県に及び、把握できたものだけで40件を超えています。また、この記事がきっかけとなり、ラジオ番組で「子どもの日特集」としてお手玉遊び

を取り上げた放送局、それぞれの地域の支部の活動を紹介した新聞社などもありました。記事の内容はほぼ同じですが、ここに、4月7日の日本経済新聞大阪本社版に掲載された紙面を紹介します。「お手玉の輪 全国に」の大見出しでは「遊ぶ」「お年寄り笑顔」の小見出しがついています。どの新聞も同じような内容で掲載されていました。

愛媛発祥の会 普及活動20年

お手玉遊びの魅力を子供に伝えようと愛媛県新居浜市の中高年がつくった「日本のお手玉の会」が、設立約20年で24都道府県に支部を拡大している。「遊び方が分かりやすく、孫の世代と仲良くできる」と各地のお年寄りを引きつけ、普及を目指す輪が広がった。

9月、会社員ら約15人が始めた。当時、独りでテレビゲームをする子供が増えていくと聞き、昔ながらの遊びを友達や家族と一緒に楽しむ喜びを教えたいと思った。

お手玉の輪 全国に

「孫と遊ぶ」お年寄り笑顔

支部は主に近畿や四国、九州にあり計44カ所。9支部ある兵庫、3支部の福岡のように複数の設立が進む地域もある。最初の支部を95年、鳥取県倉吉市で結成した福田環之さん(78)は「お手玉を初めて見る子も自然と手の上で投げ始める。お年寄りも昔を思い出して笑顔になった」と話す。30人で、新居浜をまねて小学生への出前教室を開催し、空き家を借りて開放し、高齢者に教え方を手ほどきしたりする。

全国へ広がるきっかけは、92年から17回開いた、お手玉をスポーツに見立てた大会だ。2、4個の玉を両手や片手で投げ続ける時間を競う。ユニークさが話題となり、1大会に幼児から90代まで最大約2700人が引き継がれてほしい」と語った。

日本経済新聞

2013年(平成25年)4月7日(日曜日)
発行の紹介記事より

